



# 今日も「一丁あがり」

第1話 アメリカ製マニユアスプレッダーの  
廃番スプラインシャフトを複製せよ! の巻

皆さん、はじめまして! 今月号から連載をスタートしたロボストス高垣です。群馬県を拠点にメーカーさん対応外のカスタム&リペアを部品加工屋さんと連携しながら形にする仕事をしています。無一文で始めた商売で加工設備を持たないので、力を貸してくださる協力工場さんとともに、自由に、最適な工程を考えてさまざまな部品を作ってきました。



(上)今回依頼された、アメリカH&S社製のマニユアスプレッダー



(左)ベアリングやオイルシールから逆算した組図  
(右)交換が必要な廃番のスプラインシャフト



製作したシャフトと付属部品群

これから本誌で弊社のものづくりログを綴っていきますので、お楽しみいただけましたら嬉しいです。さあ! 記念すべき連載一発目、まずはコチラからいってみましょう!

**シャフトさえあれば……**  
鹿児島県志布志市の農業生産法人さんから、アメリカH&S社製マニユアスプレッダーのスプライン



高垣達郎 (たかがき・たつろう)  
1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に株式会社ロボストスを創業し、農林水産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。株式会社ロボストス 代表取締役社長。

シャフトの複製依頼がありました。「頑丈な機械で重宝したのですが、駆動部分がダメになっちゃって」と。アメリカのメーカーならば、おそ

らく寸法はミリじゃなくインチ。しかも皆さん、写真を見てください。今回はシャフトがボロボロ。取り外す際に溶断せざるを得なかったようで、全長寸法さえわからない状態です。さすがにこれは厄介だあ……と思いつつも、複雑な依頼であるほど燃えるのが男のサガ。諦めるにやあまだ早い!

ベアリングなどの寸法から逆算すれば組図は想定できますし、マシンが手元になくとも鹿児島の現場とコミュニケーションできれば、リスクも最小限に抑えられるわけです。

ここで考えられる限りの準備をした上で、リスク上等!! 挑戦してみましょう。鹿児島で期待して待たれてる人たちがいるのだから! と群馬でドヤ顔をキメながら、今日も元気にレッツトライ!

- 【今回の工程はコチラ!】
- ① シャフトの機能を整理
  - ② シャフトの図面を作成
  - ③ 材料を購入
  - ④ シャフトを旋盤・キー溝加工
  - ⑤ シャフトにスプライン加工
  - ⑥ シャフトに焼入れ

弊社を含めて、5社で仕上げます。

協力工場各社それぞれのバートをバッチリ決めてくれて完成〜〜!

## 今回のご褒美は?

上手く仕上げられたと思って納品しても、やっぱりお客さまの反応を聞くまではドキドキもんです。現場から届いたのは「復活しました! 良い仕事しますね〜」のご連絡。いやあ天に昇るほど嬉しいツッね♡ リスクも高けりゃ手間もかかる仕事ですが、お客さまからの「ありがとう!」の一言だけで、ご飯3杯いけちゃいますね(笑)

ちなみに、こちらの農家さんは西郷隆盛の子孫に違いないと思うほど男らしい顔立ちなのですが、アルコールを一滴も飲めない下戸さん。この依頼を機に関東にいらっしやる際は食事を一緒にするほど懇意にしていただけになりました。仕事で繋がり、笑って話せる。それが最高のご褒美ですね。ということ、今日も一丁あがり〜〜!